

# 駒込地区



# 駒込地区町会連合会

● 昭和36年4月結成

吉片町会  
浅嘉町会  
曙町会  
上富士町会  
上動五三会  
動坂中町会  
動坂町会  
富士前町会  
神明町会  
神明上町会  
神明西部町会  
本駒自治会

## ■ 歴代会長

初代 吉原 欽吉 (昭和36年4月～昭和37年3月)  
二代 星野 真皎 (昭和37年4月～昭和38年3月)  
三代 坂部金太郎 (昭和38年4月～昭和39年3月)  
四代 加藤 康延 (昭和39年4月～昭和40年3月)  
五代 河西 菊三 (昭和40年4月～昭和41年3月)  
六代 影山 薫 (昭和41年4月～昭和42年3月)  
七代 早乙女一栄 (昭和42年4月～昭和43年3月)  
八代 福山 清 (昭和43年4月～昭和45年3月)  
九代 酒井 次太 (昭和45年4月～昭和46年3月)  
十代 飯塚文次郎 (昭和46年4月～昭和47年3月)  
十一代 岡本 昌一 (昭和47年4月～昭和48年3月)  
十二代 泉 喜一 (昭和48年4月～昭和49年3月)  
十三代 清水 栄一 (昭和49年4月～昭和50年3月)  
十四代 加藤 康延 (昭和50年4月～昭和51年3月)  
十五代 鈴木松太郎 (昭和51年4月～昭和52年3月)  
十六代 大畑三次郎 (昭和52年4月～昭和53年3月)  
十七代 野上 精 (昭和53年4月～昭和54年3月)

## 地区町会連合会のあゆみ

駒込地域は、戦後疎開から戻ってきた人や新しく駒込の地に移り住んだ人たちによって、この地域を何とか住みよいまちにしようと自治と親睦を目指して地域の中に自主組織が発足しました。

当初、その主な行事は、街路灯の設置、防犯・防火活動、地域の清掃・環境美化などの取り組み、また、先祖代々から伝わる氏神様の祭礼行事などに地域の人たちが力を合わせて行ってきました。

昭和27年サンフランシスコ講和条約が成立し進駐軍からの指示で禁止されていた町会の復活が叫ばれ戦前にあった町内会をもとに任意団体としての町会が結成され今日に至っています。個々の町会が活動する中で地域住民の地方自治への意識の高まりや行政機関との相互連携の必要性から昭和36年4月に駒込地区町会連合会が結成されました。

## 駒込地域の成り立ち

文京区史によると、この駒込一帯は奈良時代武蔵の国豊島駒込領より発展し、天祖神社を中心に岩槻街道をはさんで、農、工、商の町民が点在し江戸初期より駒込文化が芽生えはじめました。その主なる人物はこの地一帯治めた駒込名主の高木家でした。

高木将監は元和元年(1615)大阪落城後、豊臣の残党として関西から亡命し当時伝通院領であった駒込の開拓を許され、代々



名主屋敷門 式台つき玄関



十八代 田中 博愛 (昭和54年4月～昭和55年3月)  
 十九代 向山 但 (昭和55年4月～昭和56年3月)  
 二十代 田所 市蔵 (昭和56年4月～昭和57年3月)  
 二一代 宇田川芳太郎 (昭和57年4月～昭和58年3月)  
 二二代 島田 英吉 (昭和58年4月～昭和59年3月)  
 二三代 高木 英介 (昭和59年4月～昭和60年3月)  
 二四代 大畑三次郎 (昭和60年4月～昭和61年3月)  
 二五代 加藤 康延 (昭和61年4月～昭和62年3月)  
 二六代 栗原 茂信 (昭和62年4月～昭和63年3月)  
 二七代 飛田 正一 (昭和63年4月～平成1年3月)  
 二八代 中島國三郎 (平成1年4月～平成2年3月)  
 二九代 山本 勝人 (平成2年4月～平成3年3月)  
 三十代 戸井田房治 (平成3年4月～平成4年3月)  
 三一代 市村 英司 (平成4年4月～平成5年3月)  
 三二代 田辺 信一 (平成5年4月～平成6年3月)  
 三三代 糸魚川勝彦 (平成6年4月～平成7年3月)  
 三四代 高木 英介 (平成7年4月～平成8年3月)

三五代 大畑三次郎 (平成8年4月～平成9年3月)  
 三六代 栗田 昌二 (平成9年4月～平成10年3月)  
 三七代 水口 清 (平成10年4月～平成10年10月)  
 (代行) 川島 一郎 (平成10年11月～平成11年3月)  
 三八代 川島 一郎 (平成11年4月～平成12年3月)  
 三九代 小林 功 (平成12年4月～平成13年3月)  
 四十代 山本 勝人 (平成13年4月～平成14年3月)  
 四一代 加文字 隆 (平成14年4月～平成15年3月)  
 四二代 塚本富士夫 (平成15年4月～平成16年3月)  
 四三代 荒井 三郎 (平成16年4月～平成17年3月)  
 四四代 糸魚川勝彦 (平成17年4月～平成18年3月)  
 四五代 中村 進 (平成18年4月～平成19年3月)  
 四六代 古谷 喜一 (平成19年4月～平成20年3月)  
 四七代 小池 邦夫 (平成20年4月～平成22年3月)  
 四八代 大畑 雅一 (平成22年4月～平成24年3月)  
 四九代 宮本 誠司 (平成24年4月～平成26年3月)  
 五十代 櫻井新次郎 (平成26年4月～)

嘉平次を名のり名主役をつとめました。名主とは、江戸町年寄の指揮を受けて、支配地内の町人の取り締まりの一切の責任を負うという役職でした。現在の名主屋敷は火災により享保2年（1717）に再建と伝えられ、名主屋敷は公務を司る役宅であり、ここは名主屋敷の旧規を保っています。一般の町屋では許されず武家でも旗本以上の屋

敷しか許されない式台つきの玄関があります。

次に天祖神社は社伝によれば文治5年（1189）源頼朝が奥州征伐の途中、このあたりに寄ったところ、松の枝大麻（伊勢神宮の授けるおふだ）がかかっていた。それで頼朝は神明あまてらすおみかみ（天照大神）を祀ったといわれています。



天祖神社神幸祭（平成24年）

例大祭（9月中旬）氏子13町会の連合神輿が本郷通りに並び、一斉に宮入を行う。

神幸祭（4年に一度）大正11年に製作された本社神輿は、台座三尺八寸の千貫神輿とも言われる大神輿（本所・大倉竹次郎製作）。平成12年には氏子会の熱意によって修復され（本行徳・十六代浅子周慶）、44年ぶりに氏子会を渡御されました。以来4年に一度神幸祭が行われ、本社神輿は氏子13町会の全ての地域で引き継がれながら渡御が行われます。平成24年には4年に一度の年あたり盛大に神幸祭が行われました。本社神輿が13町会に渡御され各町会が責任を持って次の町会に引き継ぐという駒込地区町連の力を結集しての一大イベント



麦わら蛇

トなのです。

富士神社の山開きは駒込地区の重要な祭事です。富士講は秀麗な富士山を崇拝する山岳信仰。近世中ごろから江戸庶民の間に集団で富士山に登拝する富士講が多く発生しました。

「江戸は広くて八百八町 江戸は多くて八百八講」（古川柳）

富士山にいけない人は江戸の富士に詣でました。富士講の流行とともに、模造の富士山である富士塚が各地につくられた。「お富士さん」と呼ばれ、区内では「駒込のお富士さん」、護国寺の「音羽の富士」、白山神社の「白山の富士」が有名でありました。山開きには、富士講の人たち（主に町会長）が万灯を掲げて町内を回り、神社に戻り、社殿を3周して花万灯を奉納し山開きとしている。この祭事も町の人たちに受けつがれ伝統文化の祭事となっています。また、山開きの大祭3日間、縁起物授与品「神龍」（麦わら蛇）を授与する。この蛇をおいた家は、当時、流行した疫病から免れたとされています。

柳多留<sup>やなぎたるとる</sup>（古川柳）「駒込は一富士二鷹三茄子」という句があります。富士とは富士



万灯回り



神社のお富士さん、鷹は現在の駒込病院付近  
近一帯にあった鷹匠屋敷。茄子とは、富士  
神社裏側一帯でとれる茄子のこと、初夢の  
めでたいものにつけ駒込の名所名物を歌い  
こんだものであり当時の駒込が偲べれます

8月の初めに行われる夏の納涼盆踊り大  
会も駒込地区町連の一大イベントです。各  
町会が毎年持ち回りで受け持ち、駒込地区  
の町会が力を合わせて富士神社の境内で  
行っています。

また、2月3日の富士神社で行われる節  
分の豆まきも多くの人で賑わっています。

### 駒込地域の変貌

都電は駒込地区に住む人たちにとっては  
重要な交通手段であり、地域の発展にも大  
きく寄与してきました。しかしながら自動  
車の増加や交通局の経営悪化などにより、  
昭和42年12月に、神明町車庫から銀座7丁  
目を走る都電が、さらに昭和46年12月王  
子から通3丁目（八重洲）を走る都電がそ  
れぞれ廃止されました。現在残っている都  
電は荒川線だけ。区内を走っていた都電の  
車両が今神明都電車庫跡公園の敷地内に置  
かれています。

こうして都電の廃止とともに、本郷通り  
や不忍通り沿いは大きな変貌を遂げていく  
ことになります。

今、幹線道路沿いには高層マンションが  
建ち並びまちの景観も大きく変わってきて  
います。新住民も多くなりコミュニティー  
の希薄化や高齢化に伴い地域での一人暮ら  
しのお年寄り世帯の増加が地域の問題と  
なっています。今後、地域の町会が取り組  
むべき課題でもあります。地域の歴史とま  
ちの伝統文化をよく知る町会の役割は重要  
さを増してきています。

参考文献「文京区史」

「ぶんきょうの史跡めぐり」

「ぶんきょう町名由来」



昭和46年3月、本郷通りを走る都電最後の日



毎年、富士神社で行われる駒町連盆踊り大会

## ■ 歴代会長

初代 井ノ部 一（昭和24年12月～昭和25年3月）  
二代 井上嘉一郎（昭和25年4月～昭和33年3月）  
三代 小川 銀造（昭和33年4月～昭和40年3月）  
四代 星野 真皎（昭和40年4月～昭和51年3月）

五代 大畑三波郎（昭和51年4月～平成10年6月）  
六代 寺島 秀麿（平成10年7月～平成19年3月）  
七代 橋口 賢（平成19年4月～平成20年5月）  
八代 大畑 雅一（平成20年6月～）

## 町会のあゆみ

昭和24年12月に地域のための自治団体として地域住民が明るい住みよい町にするために吉片親和会を結成しました。その後吉片町会と名称を変更し今日にいたっています。

地域の人達との親睦、警察、消防、区役所などの関係機関と相互連携をはかり、交通安全、防災訓練、防犯活動、青少年健全育成への応援協力、環境浄化等の奉仕活動とくに婦人部の活動は町内を班に分け班ごとに数名の人達が分担し区の広報誌の配布、祭礼行事への協力、町会費の集金など組織をあげて活動しています。

町会も最近ではマンションがふえて町会員の7割の住民がマンション住まいです。マンションの人達となかなか連絡がとれず町会への関心が低く町会活動への参加が少ないのが残念です。

町会住民の高齢化もはげしく65歳以上の高齢者は3割近くになり、若者が少なく町会活動に影響しているのが悩みのたねです。

町会の由来は吉祥寺と門前の駒込片町併せて両方の吉と片

を取り吉片町会といいます。

町内には5つの寺院があり八百屋お七で有名な吉祥寺、江戸五色不動の目赤不動の南谷寺、江戸33観音の定泉寺、樋口一葉の師半井桃水の墓がある養昌寺、都史跡の原氏の墓がある洞泉寺等境内に樹木が茂り本郷通りの銀杏の街路樹と合せて緑が多い町です。

町会には大小の神輿があり大正時代初期に建造されたものです。戦後2回にわたり改修し今日にいたっています。

祭礼は氏神である天祖神社の神幸祭が4年に一度行われる氏子会が組織をあげて参加をし2年に一度の祭りには太鼓、大小神輿が町内を巡行し町の安全を祈願します。



平成24年 天祖神社祭礼



## ■ 歴代会長

初代 山下久四郎（昭和24年4月～昭和29年3月）  
二代 坂部金次郎（昭和29年4月～昭和41年3月）  
三代 清水 栄一（昭和41年4月～昭和55年3月）  
四代 中澤 常雄（昭和55年4月～昭和59年3月）  
五代 栗原 茂信（昭和59年4月～昭和61年3月）

六代 栗田 昌二（昭和61年4月～平成10年3月）  
七代 小池 邦夫（平成10年4月～平成22年3月）  
八代 山下 隆一（平成22年4月～平成26年5月）  
代行 灰野 廣美（平成26年6月～）

## 町会のおゆみ

本郷区駒込浅嘉町〇番地。これが浅嘉町会の源流です。旧町名『浅嘉町』（あさかちょう）は昭和41まで続き現在の住居表示、本駒込1、3丁目及び向丘2丁目に変わりました。当町会はこの旧町名を冠しております。本郷通りから吉祥寺南側に沿って東西に走る細い道路を一辺として本郷通りと動坂通りに囲まれた三角形の地と浅嘉交番から向丘2丁目の交差点まで両側に南北に延びる短冊形の地域を合わせた一帯です。町内には寺旧跡等の歴史があります。

まずお寺ですが、天栄寺、常德寺、徳源禅院の3寺があります。天栄寺の門前、岩槻街道ぞい（現在の本郷通り本駒込1丁目の歩道橋あたり）には土物（土のついた野菜類）を商う青物市があり、賑わいを見せていました。起源は元和年間（1615～1624）だそうです。町が南北に長いこともあって氏神様が北の天祖神社、南の根津神社に分

かれています。お祭が2回あって、子供たちは喜んでますが、大人たちは大変です。

町内には、本駒込1丁目に浅嘉交番、3丁目に本郷消防署駒込出張所、東京メトロ本駒込駅があり、安全が保たれ、交通が確保されています。また歌人で国文学者の落合直文（1861～1903）は、明治26年から亡くなる36年まで当町内に住み、私塾の団体『浅香社』を基盤に和歌の改良と人材の育成に力を注ぎました。

このような町です。どうぞ皆さん一度お訪ねください。（詳細は『浅嘉町会』でホームページをご覧ください。）



もちつき



体操

柳沼康史 撮影

## ■ 歴代会長

初代 寿 三郎（昭和23年4月～昭和34年8月）  
二代 田添 一郎（昭和34年9月～昭和37年3月）  
三代 加藤 康延（昭和37年4月～平成8年5月）  
四代 水口 清（平成8年6月～平成11年3月）

代行 古賀 衛（平成11年4月～平成12年4月）  
五代 松井 彰（平成12年5月～平成16年4月）  
六代 佐藤 昌俊（平成16年5月～平成20年4月）  
七代 加藤 隆一（平成20年5月～）

## 町会のあゆみ

本駒込一、二丁目のほとんどが住居表示前までは、曙町の全域で、江戸時代は、下駒込村に属していた寒村であった。今は町の世帯数も人口も近隣の町より多い方に数えられるのである。ただ、戸数と人口の多い割に寺院が一ヶ寺もないことに気づくのである。他の町は昔から町屋として営んでいたのに対し、曙町は武家地であった事が一つの理由である。徳川家康になって江戸城を中心とした隣接に將軍の部下である重臣を戦時及び政治上の要地として各大名に下屋敷を賜ったのである。即ち支配階級である武士の土地、武家屋敷に対して町人の群居する町屋、需要と供給、これが江戸の町を発展させた一つの原因でもある。この曙町は徳川の重臣である下総佐倉の城主土井大炊頭利勝が賜ったのである。この人の藩祖は水野信元の関係で家康とは従弟にあたる人である。その頃、富士前町の一部小石川駕籠町及び原町の一部と加えて八万七千余坪といわれるこの辺を大炊ヶ原と呼んでいた。これが土井の下屋敷であった。区

内における武家屋敷として最初に建てたのである。道をへだてて向側、原町に酒井雅楽頭の下屋敷があった。土井の屋敷の前は中仙道で江戸五街道の一つに数えられている。

明治2年2月町名制定にあたって、「鶏声ヶ窪」、「鶏声の井跡」等の諸説の由来によって「曙町」と命名されたのである。龍光寺裏墓地崖下に戦前まで小川が流れていた、今は暗渠となってその姿は見られない。

土井侯本邸は3番地あったが明治の終わりから昭和にかけて2、3回の土地分譲を行っている。町内を歩いてみて整然としている姿が見られるのもそのためである。また、この町には、かつて森鷗外の妹喜美子を妻とした医学博士小金井良精先生、洋画藤島武二先生、宮内大臣の一木喜徳郎先生、漢和辞典の編者金沢庄三郎先生等知名人が数多く住んでおられる町である。今でも落ち着いたたたずまいのある町である。



平成25年2月 もちつき大会



平成23年 防犯・防火の親子パトロール



## ■ 歴代会長

初代 河西 菊三（昭和26年2月～昭和42年3月）  
二代 鈴木松太郎（昭和42年4月～昭和52年3月）  
三代 飯島 藤重（昭和52年4月～昭和62年3月）  
四代 飛田 正一（昭和62年4月～平成4年3月）

五代 川島 一郎（平成4年4月～平成18年4月）  
六代 宮本 誠司（平成18年5月～平成26年4月）  
七代 中村 正雄（平成26年5月～）

## 町会のあゆみ

現在の上富士前の土地は、往古は染井村の一部であった。寛文5年以来は、伝通院領の百姓地であって、それが元文2年に町屋を開き、延享2年12月より町奉行の支配するところとなり、変遷の後上富士前町と呼ぶようになった。町名変更により現在は、本駒込2丁目、5丁目、6丁目、（大和郷を含む）に跨がっている。

この町で特記すべきは、六義園である。既にNHKのテレビ等により、全国的にその名声を博し、吾等町民の誇りとする名園である。ちなみに六義園は、明治初年以来、岩崎家の駒込別邸となりよく保存されていたが、昭和13年4月東京市（都）に寄付されたものである。

まえがきが長くなったが、由緒ある上富士町会の生い立ちがいまだ明確ではない。

町会にも、また文京区役所にも一片の資料も現存していないので、町内の古老の方々をはじめとし、特に河西菊三、西貝芳松、飯塚文次郎（郷土史家）関根正明の諸氏のご記憶、御調査を基として記した。町

会の創設の時期は詳かではないが、関根氏の調べによると、昭和の初期に上富士町会らしきものが存在していたのではないかとこの感触を得られた由、初代会長に柏原正義氏、続いて中居清次郎、宮江長治、小林倉三、河西菊三、立石美和の各氏が歴任された。

昭和16年からの戦中、戦後の混乱期を経て戦後再開された町会は昭和26年2月11日付にて、本会会則を定めて、河西菊三氏（再任）を町会長に推薦し再発足いたし、鈴木松太郎、飯島藤重、飛田正一、川島一郎、宮本誠司の各氏を経て、現会長の中村正雄氏に至っている。

新年会・夏季ラジオ体操・12町会連合盆踊り大会・歳末夜警・日帰りバスハイク・総会・総合防災訓練・防犯・防火・交通安全運動並びに町会支部講習会・天祖神社祭礼執行・関係機関連絡会と広報周知・敬老祝意・募金に関する協力・不祝儀ある時、訃報の回覧。



天竜舟下り

## ■ 歴代会長

初代 戸井田益弥 (昭和26年4月～昭和40年10月)  
二代 福山 清 (昭和42年4月～昭和44年3月)  
三代 田中 博愛 (昭和44年4月～昭和59年3月)  
四代 戸井田房治 (昭和59年4月～平成5年)

五代 小林 功 (平成6年5月～平成16年4月)  
六代 佐藤 賢蔵 (平成16年5月～平成18年4月)  
七代 櫻井新次郎 (平成18年5月～)

## 町会のあゆみ

昭和26年3月：平和回復と共に動坂上町会親和会として再発足これを現在の町会結成とした。昭和32年：町会も区役所、警察、消防、保健所等の町内連絡業務も担当する。昭和34年10月：駒込警察防犯課の指導で管内全部に母の会が組織され当町会も母の会支部発足。



三基の神輿

昭和41年4月：新住居表示が実施されて、当町会は千駄木5丁目（40年4月）本駒込3丁目（41年4月）と分かれたのを機に町会名を「上動五三会」と改める。昭和45年9月：町会旗新調、会章を五三の桐とした。

昭和50年9月：戦時中に金物の大部分を供出し、裸同然の大神輿を修理復元して完成（二世大倉竹次郎作・台輪寸法2尺6寸・延屋根・黒漆塗り・勾欄造り）大中小の3基の神輿が勢ぞろいし戦前の昔にもどる。

昭和51年8月：町内に青年部が発足して同年11月青少年育成を目的に少年野球チーム（上動ファイターズ）を結成した。

昭和62年1月：町会創立20周年記念式典を挙行し会員に記念品配布。

平成8年2月：町会30周年・婦人部30周年青年部20周年・上動ファイターズ20周年・

を弥生会館にて多数の来賓をお招きし開催し会員に記念品配布。

平成18年7月：町会40周年記念式典を挙行、会員に記念品配布。

平成22年6月：マンション等が増え町が様変わりしてきたため町会員拡充を図り（町会入会のご案内）のパンフレットを作成。町のあゆみ、活動、行事等を紹介。会員、未入会者、マンション管理会社等に配布。



平成25年1月 もちつき大会



# 動坂中町会

● 昭和21年1月結成

## ■ 歴代会長

初代 影山 勲（昭和21年1月～昭和53年3月）  
二代 野上 精（昭和53年4月～昭和55年3月）  
三代 佐藤 実（昭和55年4月～昭和59年3月）

四代 山本 勝人（昭和59年4月～平成16年8月）  
五代 田邊 國弘（平成16年9月～）

## 町会のあゆみ

動坂の名称は元々、坂の西側に石の不動蔵（目赤不動）のある坂ということで不動坂と呼ばれていたものがいつの頃からか「不」を取って動坂と呼ばれるようになり周辺一帯を「動坂町会」と称し大正7年に創設された。

終戦後G・H・Qの指令により従来の動坂町会が組織解体され現在の3町会に分割された。その際当町は動坂中町会として昭和21年1月にいち早く設立し今日に至っている。

昭和40年1月の住居表示変更迄 ①本郷区駒込動坂町 ②文京区駒込動坂町 ③文京区本駒込・千駄木とその時々々の行政で地名の呼び方は変って来たが今でも不忍通りと交差する所が「動坂下」、駒込病院周辺を「動坂上」という呼称で交差点地名として「動坂」の名が残されている事は古き時代をしのぶ上で嬉しい事である。

当町会の主な事業は (1)新入学児童（小学校）への記念品贈呈 (2)敬老者に対する（70才以上者）記念品贈呈 (3)会員親睦を目的とし2年に1度実施する日帰り旅行 (4)その他交通、防犯、防火、防災等に関し警察、消防、区と共同し随時事業を遂行している。

また、天祖神社の例大祭（9月16日）には、各町会による神輿や山車の渡御を行い祭りを盛り上げている。なお平成12年以降は4年ごとに神幸祭を執り行い氏子13町会を巡行するこれらの行事にも積極的参加をしている。



町内を練り歩く子供神輿



平成22年6月27日 犬吠埼灯台前にて町会レクリエーション

## ■ 歴代会長

初代 小野 幹一（昭和28年4月～昭和30年3月）  
二代 平賀卯之吉（昭和30年4月～昭和32年3月）  
三代 横川富士作（昭和32年4月～昭和34年3月）  
四代 早乙女一栄（昭和34年4月～昭和46年3月）  
五代 加藤五兵衛（昭和46年4月～昭和48年3月）  
六代 福田長次郎（昭和48年4月～昭和54年3月）

七代 向山 但（昭和54年4月～昭和60年3月）  
八代 中島国三郎（昭和60年4月～平成8年3月）  
九代 鈴木 慎三（平成8年4月～平成9年3月）  
十代 加文字 隆（平成9年4月～平成18年3月）  
十一代 溝口 基善（平成18年4月～平成22年3月）  
十二代 福田敏一郎（平成22年4月～）

## 町会のあゆみ

動坂町会は、不忍通りと不動坂の交差する、動坂下交差点を中心に東西にまたがる位置にあります。不忍通りは路面電車が通り、また映画館が2館あり商店も繁盛していましたが、区画整理により、表通りは高層ビルが立ち並び、入居者は増えたものの、商店街は時代の趨勢、また、物流攻勢に押され以前の賑やかさは消えつつあります。

戦後の初代会長小野幹一氏以降、12名の町会長が就任しておりますが、4代早乙女一栄会長には任期中の42年、区議会議員に当選、4年の町会長兼任後、46年再び区議会議員に当選され、面目躍如たるものがありました。

町会の組織は、会長、副会長3名、総務・会計・厚生・交通・防犯・防火防災・婦人・青少年・青年の各部と会計監査で構成し、地域を6部に分け、町会行事の周知、行政刊行物の配布、行政機関からの行事協力要請（交通安全運動・防災防火訓練・防犯パトロール・歳末特別警戒・3町会合同ラジオ体操・赤十字等の布陣活動）等に参加、実施しております。

また、町会独自の活動として、

天祖神社祭礼の大神輿・山車の巡行、日帰り旅行、敬老会での会食・記念品の贈呈、高齢者クラブ動坂長寿会への援助、入学児童へ入学祝の贈呈、子供祭り、餅つき大会、毎年定期総会における議案書と3年毎に町会員名簿を作成配布するなどして、町会員相互の親睦と融和を図り、安心した街づくりに取り組んでおります。



平成24年祭礼 町内御輿



## ■ 歴代会長

初代 山口菊太郎（昭和27年10月～昭和30年9月）  
二代 前原 実（昭和30年10月～昭和32年9月）  
三代 新井 蔵吉（昭和32年10月～昭和34年9月）  
四代 桑原 武夫（昭和34年10月～昭和36年9月）  
五代 鷺田富士衛（昭和36年10月～昭和39年3月）  
六代 桑原 武夫（昭和39年4月～昭和41年3月）  
七代 飯塚文治郎（昭和41年4月～昭和49年3月）  
八代 東 武治（昭和49年4月～昭和52年7月）

九代 杉山哲一郎（昭和52年8月～昭和55年3月）  
十代 宇田川芳太郎（昭和55年4月～平成2年3月）  
十一代 田辺 信一（平成2年4月～平成10年3月）  
十二代 鷺田 隆一（平成10年4月～平成12年3月）  
十三代 塚本富士夫（平成12年4月～平成22年3月）  
十四代 新井 基二（平成22年4月～平成26年3月）  
十五代 藤井 克彦（平成26年4月～）

## 町会のあゆみ

今は立錐の余地もない程に家屋が立並んでいるが、江戸時代は下駒込村の百姓地であった。元文2年（1737年）に町屋が許され、延享2年（1745年）に町奉行支配となった。本郷通りはかつて岩槻街道（別称御成街道）と呼ばれたが、その東側、町内の町屋裏に富士神社があり、その前ということで「駒込富士前町」と名付けられた。

“一富士、二鷹、三茄子”と言われ、富士山信仰で栄え、門前市をなしたお富士さんは、我が町会のシンボリック的存在である。

町域の小さい割に多い寺は、明暦の大火後、江戸城周辺やお茶の水辺りにあったのが、幕府の命によって移転させられたもの

で、山の手と称した小石川・本郷、下谷等に移された寺町の一つである。

町会の活動としては全国交通安全運動への参加や防災活動・防犯運動・歳末の“火の用心”パトロールなども実施している。各年齢層からの参加の多いのが秋の天祖神社祭礼で、大神輿と山車で町内を練り歩く。日帰りバス旅行も人気が高く、このところ大山・川越・宇都宮・昇仙峡へと足を延ばし、秋の味覚を楽しんで来た。最近では、藤井会長のもと結束して、敬老の日の記念品を75歳以上の方に配布し、またリサイクル運動として資源回収の運動などにも取り組んでいる。



富士前町会祭礼委員



平成23年 富士前町会レクリエーション

## ■ 歴代会長

初代 酒井 次太 (昭和23年4月～昭和34年3月)  
二代 米山 九市 (昭和34年4月～昭和38年3月)  
三代 大滝 寅治 (昭和38年4月～昭和41年3月)  
四代 酒井 次太 (昭和41年4月～昭和46年3月)  
五代 米山 九市 (昭和46年4月～昭和54年3月)

六代 田所 市蔵 (昭和54年4月～昭和63年3月)  
七代 市村 英司 (昭和63年4月～平成5年3月)  
八代 荒井 三郎 (平成5年4月～平成21年3月)  
九代 小林 誠 (平成21年4月～)

## 町会のおゆみ

戦前の祭礼は、神明東部、北部町会で「神昭会」を結成し、昭和5年に現在に残る立派な大神輿、小神輿（2基）、太鼓が新造され町内渡御も盛況を極めたが、戦争で中断、昭和25年連合町会に依る、お神明様の（現天祖神社）大祭が執行され、三業からは華やかな「手子舞」、町内揃いの祭絆纏の若い衆による神輿渡御は、昔に勝る壮観であった。

現在も先人の意志を大切に受け継ぎ守っている。

敬老祝意は75歳以上の高齢者に町会行事として贈呈している。また高齢者クラブは「寿同志会」「寿神明クラブ」2つの組織が活発な活動を続けている。

昭和26年都市計画による、区画整理が

開始され38年終了、現在の優れた街並みが完成した。

昭和40年、住居表示については、永年親しみ呼びつがれた「駒込神明町」が「本駒込」と表示されることに至った。

昭和46年、住民の惜別の念も空しく、都電が撤廃され、車庫跡地は、その後勤労福祉会館、図書館、幼稚園、都営アパート、車庫跡公園等が同時に建設され、都市化が一層進められた。

現在は、マンション居住の会員の数が急速に増え続け、薄れた地縁、連帯感の希薄等、種々問題も山積していますが「安心」「安全」で明るい街造りに、これからも役員、町民一体となって取り組み中です。



平成23年 天祖神社祭礼



## ■ 歴代会長

初代 吉田 栄治（昭和30年9月～昭和35年3月）  
二代 中村 利男（昭和35年4月～昭和39年3月）  
三代 寺谷 正雄（昭和39年4月～昭和42年3月）  
四代 岡本 昌一（昭和42年4月～昭和51年3月）

五代 島田 英吉（昭和51年4月～昭和59年3月）  
六代 松塚 幸司（昭和59年4月～平成2年3月）  
七代 糸魚川勝彦（平成2年4月～平成18年3月）  
八代 高橋 繁栄（平成18年4月～）

## 町会のあゆみ

- **町会の位置** 神明上町会は文京区駒込地区全体のほぼ中央に位置するところに在り、都指定史跡「駒込名主屋敷」、旧跡「駒込神明宮」（現・駒込鎮守天祖神社）、区立第九中学校、神明公園など、数多くあります。
- **街なみ** 戦後の都市計画により、昭和26年から10年間に及ぶ区画整理事業により、整然とした道路、緑豊かな樹木などなど、優れた街並を誇っております。
- **町会の結成** 町会結成前は祭礼を中心とした名称で「宮元」と称した。昭和29年頃、結成気運が高まり、住民全員参加・民主的運営を旗印に、有志一丸となって協議を重ねてきました。昭和30年9月「神明町上町会」が設立発足しました。以来現在まで極めて順調に、発展して参りました。
- **10周年祝賀** 昭和40年9月、設立以来、不安苦勞の連続ながら順調に発展した10年間。振り返って役員各位の功績に対し感謝状を贈り慰勞をしました。
- **住居表示変更** 昭和41年、住居表示変更が行われた。当時「神明町」であったが「本駒込」と変更になりました。旧名称には大いに未練あったが行政上やむを得ない。町会名は「神明町上町会」のままでありました。
- **20周年祝賀** 昭和50年9月、順調に迎えた20周年、当時地域一番と云われた会場「動坂花家」で盛大に祝賀したの



駒込天祖神社  
戦前の天祖神社

- であります。
- **宮元白寿会結成** 昭和53年頃、高齢者時代の気運が上って来ました。町会も高齢者健全育成のため、同年6月、100名を上廻る会員数により「宮元白寿会」の結成に至りました。
  - **30周年以後の周年記念行事**  
30周年（S60. 9）町会旗更新  
40周年（H7. 9）シビックスカイホール祝賀  
50周年（H17. 9）町内掲示板更新
  - **町会名変更・宮元氏子会合併** 平成22年4月、町名「神明上町会」と改名しました。更に祭礼の催行会であった。「宮元氏子会」を合併し、町会祭禮部を組織し、町会一体となって、祭礼を支援、他町会と歩調を合せて催行する事となった。〈文：山崎・八木・高橋〉

## ■ 歴代会長

初代 中里豊次郎（昭和24年4月～昭和30年3月）  
二代 吉原 歎吉（昭和30年4月～昭和43年3月）  
三代 山崎 静治（昭和43年4月～昭和45年3月）  
四代 泉 喜一（昭和45年4月～昭和49年3月）

五代 高木 英介（昭和49年4月～平成9年8月）  
六代 田名網芳治（平成9年8月～平成12年3月）  
七代 中村 進（平成12年4月～）

## 町会のあゆみ

神明西部町会は、本駒込5丁目の閑静な住宅街の一角にあり、戦後の焼け跡がまだ残りバラック建ての家屋が多かった昭和24年4月に結成され、住居表示実施前は駒込神明町と呼ばれていました。

今では会員も増え700所帯を数えるほどになりました。町会員相互の信頼と絆を深め、こどもに優しく、高齢者を労わり、明るい笑顔で犯罪のない、安全・安心の街づくりを目指しております。

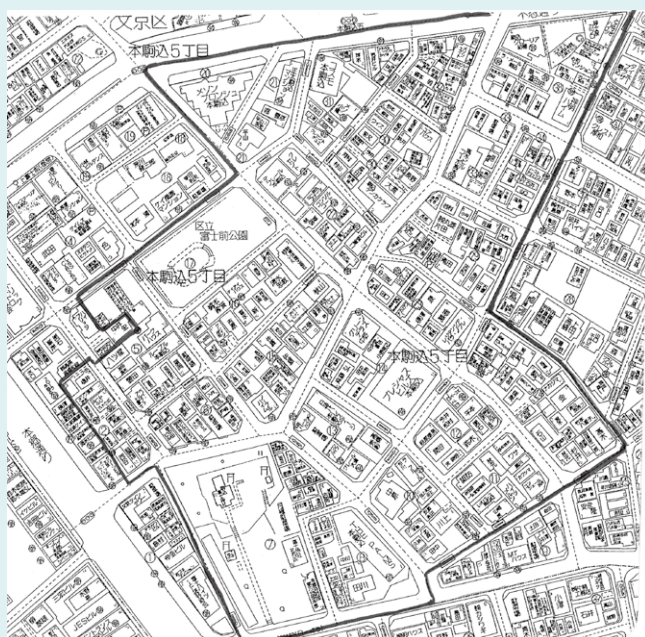
その昔、当町会の周辺には、駒込富士神社、御鷹屋敷（現駒込病院）があって富士神社北側一帯は野菜畑が広がり、美味しい茄子が採れた事から”駒込は一富士二鷹三茄子”と川柳にも詠われて有名になった所です。

昨今では個人情報保護法などにより、各種名簿の発行に二の足を踏む団体が多い中、町会員各位の理解と協力を得て、平成24年版町会員名簿を発行する事が出来ました。

地域の由来にちなみ、一富士二鷹三茄子の図柄を名簿の表紙に配し、会員の皆さまにお配りしたところ です。

町会の組織は会長、副会長、会計部、会計監査、総務部、防犯部、防火部、衛生部文化部、厚生部、防災部、交通部、青少年部、女性部で構成され、また地域内を第1地区部から第4地区部の4つに分け、更に各地区部ごとに班を編成して、行政刊行物の配布や町会行事の周知徹底など、きめ細かい取り組みをしております。

毎月3日間の防犯パトロール、月1回の夜警や年1度の防火・防災訓練を消防署、消防団の指導の下に行うなど、特に力を入れて活動しております。



神明西部町会区域の地図



## ■ 歴代会長

初代 木崎 鐵也（昭和50年8月～昭和51年3月）  
二代 吉田建二郎（昭和51年4月～昭和52年3月）  
三代 木並 徳昭（昭和52年4月～昭和53年3月）  
四代 栗俣 敏彦（昭和53年4月～昭和55年3月）  
五代 鈴木 正博（昭和55年4月～昭和56年3月）  
六代 清水 恒男（昭和56年4月～昭和57年3月）  
七代 古谷 喜一（昭和57年4月～昭和58年3月）  
八代 福崎 定夫（昭和58年4月～昭和60年3月）  
九代 尾形 宏（昭和60年4月～昭和61年3月）  
十代 酒井 元（昭和61年4月～昭和62年3月）  
十一代 森下 覚（昭和62年4月～昭和63年3月）

十二代 清水 恒男（昭和63年4月～平成元年3月）  
十三代 積田 勇（平成元年4月～平成2年3月）  
十四代 坂元 秀人（平成2年4月～平成3年3月）  
十五代 吉田建二郎（平成3年4月～平成4年3月）  
十六代 磯野 健寿（平成4年4月～平成6年3月）  
十七代 尾形 宏（平成6年4月～平成7年3月）  
十八代 清水 恒男（平成7年4月～平成8年3月）  
十九代 小島 久寿（平成8年4月～平成9年3月）  
二十代 古谷 喜一（平成9年4月～平成20年3月）  
二十一代 坂元 秀人（平成20年4月～）

## 町会のあゆみ

本駒自治会を有す都営住宅は昭和49年に旧神明都電車庫跡の3分の1の敷地内に本駒込図書館、本駒込幼稚園、勤労福祉会館を併設すると同時に建設されました。

他の町会とは異なり地元出身の人、郷里を遠くにしている人と全国各地の出身の人達で構成された“ミニ全国区自治会”です。

春、秋の交通安全運動、夏のラジオ体操、

秋の団地祭、バス旅行、定期総会、夏、冬の夜警等々色々な行事を行っています。

特に秋の団地祭は多くの参加があり大変盛り上がります。

入居以来40年が経ち高齢化が進んでいます。今後10年20年先を考えた環境整備、高齢者対策を第一に考え活動して参ります。



平成24年団地祭（9月9日）